

新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和５年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	老人福祉センター（愛称：えがおの里）、第二老人福祉センター（愛称：元気の里）			
所在地	新座市堀ノ内２－３－４５、新座市大和田４－１８－４１		所管部署	いきいき健康部 長寿はつらつ課
制度導入年度	平成１８年度		選定方法	☒ 公募 / ☐ 指名
指定管理者	名称	帝国ビル管理協同組合	所在地	東京都豊島区豊玉上２－２５－９
	指定期間	令和４年４月１日～令和９年３月３１日（５年間）		

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	令和５年度は、５月の新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後、新型コロナウイルス感染予防以前に戻り、マスクの着用や利用人数の制限をすることなく事業を推進することができました。 イベント事業は、昨年実施しなかった６月の「福祉フェスティバルへの参加」および７月の「七夕会」を含め、９月の「敬老の日の集い」、１２月の「クリスマス会」、１月の「新春レクリエーション」、３月の「サークル実技発表会」と全て予定とおり実施することができました。 その結果、令和５年度の利用者総数は、令和４年度と比較すると、えがおの里が44,953名から49,022名の約9%増、元気の里が45,994名から53,820の約17%に増加しています。
特筆事項	令和５年度は、バーコード入館システムからQRコード入館システムに移行しセキュリティの向上が図られると共にオンライン化をすることなく両センターの新規利用者データの利用が可能となりデータの更新作業がなくなりました。 ６月に実施したアンケート調査では、過去に実施したどのアンケート調査よりもセンターの雰囲気や職員の対応に関して高い評価を得ることが出来ました。 各センターの独自色として、えがおの里では、利用者から一番身近なデジタルデバイスであるスマートホンの操作に慣れもらう取組を強化しております。あまりに不慣れなため「どう質問して良いかわからない」との利用者に対応すべく、月２回のスマホ教室に加えて、操作中に問題が発生した場合や疑問点がでた場合に、タイムリーかつ気軽に相談に応じる窓口を事務所に設置して大変好評を得ております。また、フレイル予防に興味を示される利用者が増加しており、適度な運動を毎日続ける「えがおの里体操」は談話コーナーに既設された１５席の椅子を上回る参加者が毎日訪れるほどに成長しました。 元気の里では、ZOOM会議アプリを活用したイベントのリモート会場設置を、９月の「敬老の日の集い」に加え、７月の「七夕会」、１月の「新春レクリエーション」でも行いました。また、センター以外でも昨年に引き続き、９月に「TJUP地域交流委員会（十文字学園女子大学 西武文理大学 大東文化大学 文京学院大学）、ふじみ野市、文京学院大学共催の公開講座」をZOOM会議アプリを活用して実施しました。今回は一部双方向でのやり取りを加えるなど進化させました。更に、３月に実施した「洪水災害に関する防災講話」では、新座団地で開催されている催しと双方向で通信でつながりました。 地域との連携では、８月に「十文字学園女子大学の健康講話」、２月に「新座市第四中学校SDGs持続可能な開発目標ポスター展」などを実施しました。特に十文字学園女子大学との連携では、「TJUP地域交流委員会の公開講座」の運営に協力をいただき、他の施設より充実した内容をセンター利用者に提供することができました。

【総合評価】

指定管理者の自己評価				
総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	令和５年度のセンター運営は、事業計画書に基づき、基本協定書、年度協定書・業務仕様書・事務マニュアルで規定されている内容に沿って各種業務を遂行してまいりました。 高齢者のQOLを高める事業活動は、利用者個々人の身体能力や価値観により異なることから、両センターそれぞれに利用者ニーズを取り入れた事業を立案し実施してまいりました。また、デジタルデバイドの解消など、新しい課題やささまざまなニーズにも応えられるよう日々努力して来しました。 これまで、地域福祉関係者と連携するとともに、利用者の皆さんの協力、理解を頂きながらセンター運営を行ってまいりました。これからも、１人でも多くの方が楽しく１日を過ごすことが出来るよう、利用者の皆さんの要望に応え、関係者・関係機関との連携を更に深め、地域の高齢者福祉の拠点として、出来る限りの事業を展開してまいります。			
改善策	※ 評価Bの場合のみ記入			

市の評価

総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	協定書、仕様書及び事業計画に基づき、限られた予算の中で利用者に配慮した運営が行われている。 新型コロナウイルス感染症が５類になり利用制限を緩和する際も、利用者のニーズに応じた事業運営を行うことで、利用者数も徐々に回復しており、アンケート調査の結果からも適切なサービスの提供ができていると評価できる。 施設管理については、法定点検等必要な点検のほか、施設や設備の特徴に沿った運用や応急処置を行うなど柔軟に対応し、安全に配慮した運営管理を行うとともに、デジタルデバイドの解消など、新しい課題やささまざまなニーズにも応えられるよう努力している点も評価できる。 また、施設内に留まらず、近隣福祉関係機関や教育機関等の地域や他団体とも積極的に連携し、広く地域福祉への貢献を意識した活動を行っており、今後も地域福祉の拠点として地域との連携を図るとともに、利用者のニーズに沿った事業展開を期待している。			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

令和5年度の事業運営、施設運営に関して、総合評価で「適正」との評価を頂きましたが、人員配置に関しては、課題有との指摘を頂きました。

高評価を頂いた、「・利用者ニーズの取込、・施設ごとの設備管理手法、・高齢者のデジタルリテラシーの取組、・近隣福祉関係者との連携」等に関しては、これら取組を継続強化してまいります。

また、ご指摘を頂いた人員配置に関しては、業務仕様との齟齬が発生しないよう毎月のシフト表で確認することとします。
これからも、利用者に愛される地域福祉拠点として、施設運営ビジョンをスタッフ全員が共有し日々の業務に取り組んでまいります。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	年度 (年目)	年度 (年目)	年度 (年目)
指定管理者の自己評価	A	A			
市の評価	A	A			